

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■127■

先日、辞令が出て群馬県を離れることになった。このコラムの執筆は来月から新支店長にバトンを渡す。

私の群馬での一番の思い出と言えば、やはり温泉だ。茨城県在住の母を呼んで群馬を旅行した際、みなかみ町の川沿いの露天風呂に入った。湯あみ着を着て入る混浴風呂は初めてだった。

湯あみ着に着替えて湯に浸かったが、母とは少し距離を空けてしまった。親子だけで妙に気恥ずかしかつたのだ。

しばらくして母が言った。「一緒にお風呂に入

温泉県ぐんま

母の手引いて湯巡り

るのは、あんたが小学生の時以来だね」。そう言われて気が付いた。もう40年以上、母と一緒にお風呂に入ったことはな

ったのだ。

実は私も、子どもが成長するにつれて一緒に風呂に入るのがなくなり、少し寂しい思いをしている。今の私と同じ気持ちる母は40年以上感じていたと気付いた。

気恥ずかしさを感じていた自分が恥ずかしくなった。思い切つて母との

距離を縮めて、足が滑りやすいところは母の手を引きながら、いくつものお風呂を案内した。親戚や知人の近況など、のんびり話をしながら、川沿いの景色を楽しんだ。

周田を見ると、夫婦や親子孫三代と思われるグループなど、皆さん和気あいあい楽しそうにして

方が変わるといのは新鮮な驚きだった。リンダ・グラットン氏とアンドリュー・スコット氏の著作「ライフ・シフト」によると、人間の寿命が延びるほど、人生の中で性の違いを意識する期間は相対的に短くなるそうだ。この本の言う通りであれば、長寿社会

いる。男女を隔てる壁や囲いがないので、露天風呂の解放感がなおさら感じられる。湯あみ着があることで、温泉の楽しみ

では気軽に入れる混浴温泉へのニーズが高まるのかもしれない。水着を着て温泉を楽しむ慣習の外

肥後秀明（ひご・ひであき） 1969年生まれ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを経て2022年4月に前橋支店長。16日から金融機構局上席考査役。

